

研究課題名

透析患者における skeletal muscle gauge (SMG: 第3腰椎レベルの腹部骨格筋の面積と平均CT値の積) が生命予後に及ぼす影響について

研究責任者の氏名

矢島隆宏

共同研究者の氏名

荒尾舞子

研究の概要

目的: 透析患者においては、Protein-energy wasting (PEW: 体脂肪と筋肉の減少) という栄養障害が知られています。主に肝疾患や癌の領域で、CT で求めた skeletal muscle gauge (SMG: 第3腰椎レベルの腹部骨格筋の面積と平均CT値の積) が生命予後予測因子であることが報告されています。SMG は筋肉の量と質を同時に反映する可能性が報告されていますが、透析患者における SMG の生命予後予測能に関しては検討されていません。今回、維持透析患者において、SMG の PEW との関連、さらに全死亡との関連を調査します。

対象と方法: 2008年1月1日から2019年12月31日の間に、当院外来にて維持透析患者さんのうち、癌のスクリーニング検査の一環として腹部単純CTを施行した患者さんを対象とします。カルテから、身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、観察期間内転帰(全死亡、心血管死亡)などのデータを収集します。第3腰椎のスライスで腹回りの骨格筋の面積と平均CT値を計測します。面積を身長の二乗で割ったものを skeletal muscle index (SMI)、平均CT値を skeletal muscle density (SMD)と定義します。さらに、 $SMI \times SMD$ を SMG と定義します。匿名化した後に、SMG に関連するパラメーター(年齢や性別など)の評価をします。さらに、2020年12月31日までの経過から、SMG と生命予後との関係の評価をします。

研究に関する記録は、研究終了後5年間保存した後に消去します。なお、研究の成果に関しては、学会発表や論文投稿する予定です。住所、氏名などの個人情報公開されることは一切ありません。

利用する情報の項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、CT所見、観察期間内転帰など

利用するものの範囲

医師: 矢島隆宏、荒尾舞子

連絡先

松波総合病院 腎臓内科 矢島隆宏

TEL: 058-388-0111

FAX: 058-388-4711